

# 連携による食と環境ビジネス

地域資源を最大限に活用した町おこしと起業プラン

**第二の上勝町を全国に100ヶ所誕生させよう**

2009 / 10 / 16

(株) 精膳 河野武平

e-mail [qqdt545d@waltz.ocn.ne.jp](mailto:qqdt545d@waltz.ocn.ne.jp)

homepage <http://www.metaboless-cooking.com/index.html>

homepage <http://www.lohas-design.jp/>

# 徳島県上勝町の実情

## 利益の上がる効率的農業の実践

- 庭先や裏山の樹の葉や山菜、花の活用 (資源の活用)
- 面積当たりの収益率は全国一 (効率的農業の実践)
- 年齢、時間に関係なく、できる軽作業 (住民参加)
- 全家庭にITの普及と情報システムの確立
- (社会から孤立させない)
- ゴミゼロ運動を実施し、34分類のゴミ分別処理
- (環境への認識)
- 上流域の河川、山の清掃による環境対策 (社会活動への認識)
- <地域への波及効果>
- 観光客、見学視察の増加、テレビや報道取材の増加、テレビのドラマ
- 元気な高齢化社会の実現と医療費の軽減 (寝たきり老人を作らない)
- 若者のUターン、Iターンの増加
- 財政の健全化

健康長寿伸長の価値を引き出す

# 果たして日本は豊かな国なのか？


|            |         |
|------------|---------|
| 日本の国土の荒廃比率 | 約77.5%  |
| 山林と荒廃地     | 国土の72%  |
| 農地の休耕地     | 国土の5.5% |

\* 国土の可住地面積の比率約31%

# 豊かな国、豊かな地域の骨格

- 大地が豊かで健全である
- 国民生活が健全で健康である
- 国家や地域の財政が健全である
- 市民の理念、倫理観が健全である。
- 
- 国民や市民の知的能力が高く、
- 復元力が旺盛である。

# 日本人の食文化の源泉

- 豊かな自然、四季、豊富な食材
- 色彩、香り、旋律の感覚
- 
- 
- 
- 
- 
- 食文化の密度 = 保存、貯蔵並びに加工技術の追求
- 食文化の密度  全ての文化の密度

味覚の構成

食文化

# 20世紀の豊かさの追求

## 生産効率の追求、

均一化、大量生産、規模の拡大

農業生産では

施設園芸、密植栽培、周年栽培、圃場規模の拡大、機械化

農薬の多量散布、化学肥料への依存

家畜飼育では

集団飼育、過密飼育、飼育単位の拡大

ホルモン剤、抗生物質の多量投与

環境負荷の増加(窒素過多、残留農薬)

農畜産物全体の品質の低下

# 農畜産物の品質低下

- 1. 国民の健康への影響
  - **メタボの増加**
  - 糖尿病、心疾患、腎臓疾患、ガン、
  - 認知症等の増加
  - **アレルギー疾患の増加**
- 2. 食生活の変化
  - 素材の品質から調味料への依存
  - 加工食品の増加、添加物の増加
  - 家庭内調理の減少

# 高島市、リボーンのプロ案

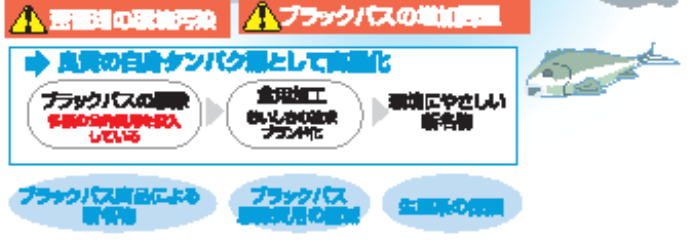
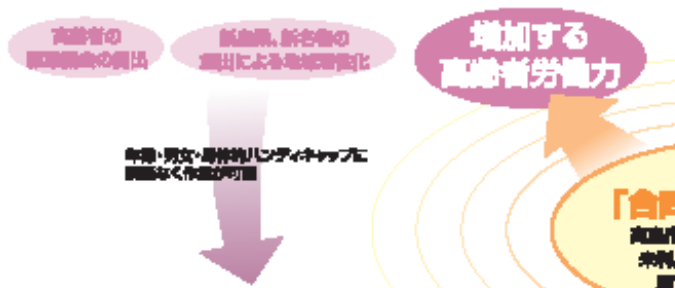
- 放置されている資源、資産、価値のみなおし
- 1. 山林 - 樹の葉の利用、鹿肉等
- 2. 休耕地 - 廃鶏の飼育、ハーブの栽培
- 飼料の自給生産
- 3. 湖水 - ブラックバス、ブルーギル
- の食品加工
- 4. 高齢者 - 技術能力の活用



# 高島市の新たな活動

**社会的課題**

- ・地域経済の縮小化
- ・山林・琵琶湖の環境保全
- ・新たな就業の場の創生



# 遊休資産、資源と最先端科学との融合 有機農業技術の導入 高度な割烹技術、食品加工技術

- 樹の葉のビジネス
  - 1. 樹の葉の四季と香りの解析
  - 2. 香りと脳画像科学の解析
  - 3. 香りと癒し、一波による効果の解析
  - 4. 酸化還元反応による香り成分の固定化
  - 5. 香りと和紙の工芸加工、新素材の研究
- EUの有機農業による飼育スタイルの導入
- 発酵飼料の投与と家畜健康に関する研究
- 京懐石、茶懐石料理とブラックバスの品質評価
- 7つの国公立大学との共同研究

# 高齢者社会における生き甲斐の研究

- 第二の上勝町を育成する効果と実践的研究
- 大阪青山大学
- 大阪大学社会経済研究所
- との共同研究
- 2009年度から3ヶ年の文部科学省科研費による研究

# 日本が20世紀で見失った 価値の見直し

- 自然の駆逐から自然界全ての共存と共生
- 均一化から地域の特性の育成
- 経済サイクルと自然の周期、生育循環サイクルの違いを認識する
- 単年度評価から持続的、永続性価値の評価への転換
- スケールメリットとスケールデメリットの正しい評価基準

